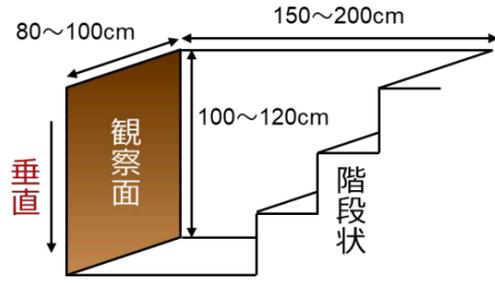
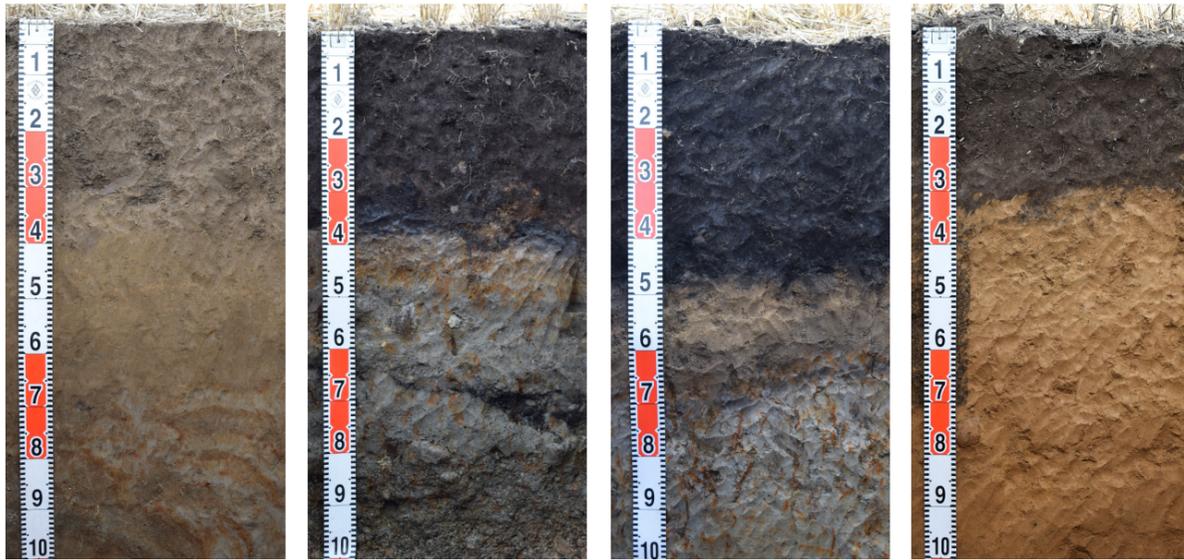


圃場で土壌の内部を観察するためには、地表面から下に向かって垂直に土を掘っていきます。幅約1m、奥行約2mで、深さ1mまで剣先スコップで掘っていきます。観察する面の反対側を階段状にしながら掘り進みます。掘った土は左右に敷いたブルーシート上に掘り上げていき、表層土と下層土は分けておきます。調査が終わった後は、下層土から埋め戻し、すき間がでないように少しずつ踏み固めていきます。最後に表層土を埋め戻していくので、ほぼ元通りに回復します。



圃場に垂直な穴を掘って
土壌断面調査を実施



十勝川左岸

松沢道々沿い

松沢中台

下佐幌



土壌断面の調査にあたって草地を掘削している際の状況を写真で切り取ってみました。その場所がフィールドワークの教室そのものになる光景は、大変迫力あるものでした。



7地点10断面を紹介していきます
私たちの研究グループは、十勝清水町農業協同組合との共同研究を行っており、2021年度は町内の草地3地点6断面、畑地4地点4断面の計7地点で10個の土壌断面を調査しました。せっかくの機会ですので、このコラムで各地点の断面を紹介させていただき、それぞれの土壌がどのような特徴をもっているのか、どのようにして改良していけば良いかなどを説明していきます。

十勝清水町の土壌断面

土壌の横顔からの成り立ちや特性を理解する



帯広畜産大学 グローバルアグロメディシン研究センター

教授 谷 昌幸

1968年大阪市生まれ
1995年帯広畜産大学助手着任、
2015年から現職

日本土壌インベントリーの土壌図
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）という国立の研究機関が日本土壌インベントリーというホームページを開発しており、そこにある土壌図をクリックすると詳細な土壌の地図を見ることが出来ます。地図上をクリックすると、「腐植質普通アロフェン質黒ボク土」とか、「礫質普通褐色低地土」とか、いろいろな分類名が表示されるようになっていきます。でも、名前を見ただけではどんな土壌なのかイメージがつかみにくく、しかも実際の圃場の土壌とは少し違うこともあり、やはり自分の目で確認することが大事です。

清水町内の農耕地には様々な土壌が分布
清水町の畑地や草地などには、火山灰からできた黒ボク土、川が上流から運んできた土砂からできた低地土、湿地に生えていたヨシなどの植物遺体からできた泥炭土など、様々な種類の土壌が分布しています。また、同じ黒ボク土であっても、表層土壌が黒色の圃場もあれば、暗い褐色の圃場もあり、その成り立ちや土壌特性は大きく異なります。

